

平成20年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ニギス

学名 *Glossanodon semifasciatus*

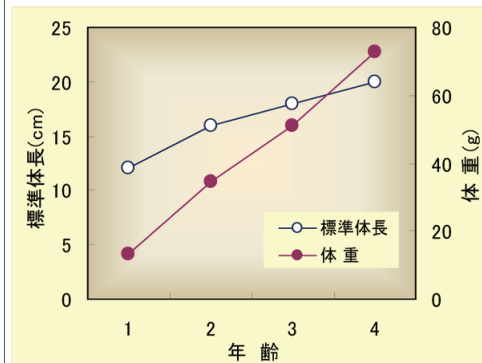
系群名 日本海系群

担当水研 日本海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 5歳
成熟開始年齢: 1.5歳
産卵期・産卵場: 周年産卵、産卵のピークは春季と秋季、産卵場は不明
索餌期・索餌場: 周年、水深100～200m
食性: オキアミなどの浮遊性小型甲殻類
捕食者: ヒラメ、ソウハチ、ムシガレイ、アカムツ等が報告されているが、詳細は不明

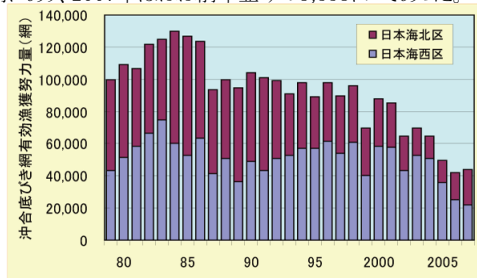
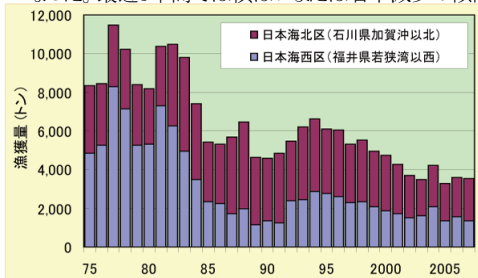


漁業の特徴

本種の主な漁場は青森県～島根県の日本海沿岸と、愛知県および高知県の太平洋沿岸であるが、日本の漁獲量の7～8割が日本海沿岸で水揚げされている。本州沖合の日本海において、本種は水深100～200mに分布しており、主として沖合底びき網(沖底)と小型底びき網(小底)で漁獲されている。日本海では、新潟、石川、兵庫、島根の4県での水揚げが多く、これら4県で日本海側総漁獲量の約9割を占めている。

漁獲の動向

総漁獲量の推移をみると、1975～1983年までは10,000トン前後で推移していたが、1984年以降急減し、1990年には約4,600トンまで減少した。1991年以降は一旦増加に転じ、1994年に約6,600トンとなったが、その後再び減少傾向となった。最近5年間では横ばいまたは若干減少の傾向にあり、2007年はほぼ前年並みの3,558トンであった。



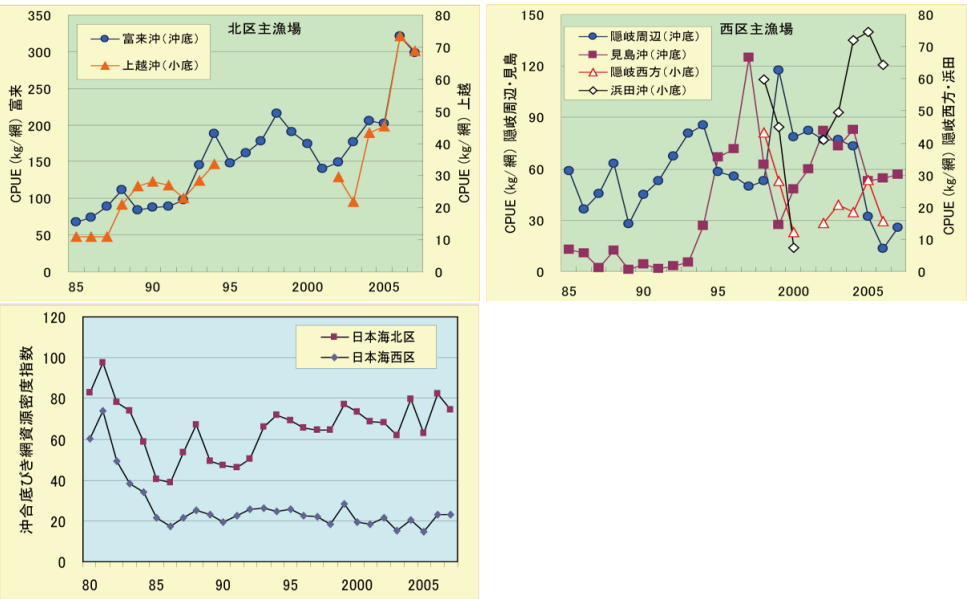
資源評価法

新潟、石川、兵庫および島根の各県の漁船が利用するニギス主漁場の資源状態(漁獲状況)と、沖合底びき網(1そうびき)(以下沖底)の資源密度指数をあわせて資源評価を行った。

資源状態

北区(石川県以北)を見ると、石川の輪島沖と珠洲沖でCPUEがやや低下しているものの、新潟上越沖と石川富来沖におけるCPUEは過去最も高い値を示していることや、沖底資源密度指数は過去最も高い水準にあることから、資源状態は良いと判断した。西区(福井県以西)の主漁場では、隠岐諸島の周辺でCPUEが低下していたが、浜田沖、見島沖のCPUEは中位水準以上であり、沖合底びき網の資源密度指数も中位水準以上であることから、西区全体の資源状態としては中位水準にあると判断した。系群全体では、西区の状態を重視し、中位水準・横ばい傾向と判断した。





管理方策

北区(石川県以北)では資源状態は良好であり、各主漁場および沖合底びき網の努力量は減少していることから漁獲圧も低いと考えられ、現状を維持しても良いと判断した。西区(福井県以西)では資源は中位水準であり、各主漁場および沖合底びき網の漁獲努力量は減少ないしは低い状態で横ばいであるため漁獲圧は低いと考えられた。しかし、一部主漁場の資源状態の悪化が懸念されるため、漁獲圧を削減することを提案する。ABCは海域別に算定し、北区では漁獲量の3年平均をABClimitとし、その9割をABCtargetとした。西区では漁獲量の3年平均の8割をABClimitとし、さらにその8割をABCtargetとした。

	2009年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	3,200トン	1.0北Cave3-yr+0.8 西Cave3-yr	—	—
ABCtarget	2,800トン	0.9・1.0北Cave3-yr+0.8・0.8西Cave3-yr	—	—

資源評価のまとめ

- 北区(石川県以北)は資源状態も良く、漁獲圧も低い状態にある
- 西区(福井県以西)の漁獲圧は低いものの、一部主漁場の資源状態悪化が懸念される

管理方策のまとめ

- 北区は現状の漁獲圧を維持しても良い
- 西区は漁獲圧を引き下げる
- ABCは海域別に算定した

資源評価は毎年更新されます。